



消費者の食選択： フードファディズムと自然志向の関連

○工藤 大介（東北学院大学），李 楊（東北学院大学・名古屋大学）

mail: dkudo@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

URL: <http://dicek.net/>, X: @kddisk

研究の背景

- **フードファディズムとは食品の健康効果に対する過剰な信奉を指す** (Kanarek & Marks-Kaufman, 1991)
- 特定の食品 (e.g., 納豆, トマト (e.g., 井上ら, 2018; 高橋, 2007)) が「健康によい」と喧伝されると、過剰購買が引き起こされる
- 効果がない or 健康への悪影響により消費者の経済的損失, 健康被害による医療資源の損失, 物流の乱れなど社会的問題につながるケースがある (e.g., 左巻, 2014; 高橋, 2007)
- **しかし, フードファディズム問題については, 消費者行動や心理に対する検討は十分ではない** (e.g., 井上ら; 工藤, 2020)

研究の目的

- 本研究ではフードファディズムにつながる消費者の心理的基盤の解明を目指す
- 自然食品や無添加食品への盲目的な信奉を典型例とし、**「自然」と銘打たれるとポジティブな健康影響を結び付ける「自然の方がよいバイアス」**（Natural is better bias: e.g., Meier et al., 2029）に着目
- **「自然」と銘打たれた食品が消費者に選択されやすいか検討する（目的1）**
- **フードファディズム的食品と「自然」と銘打たれた食品に対する、消費者の評価の違いを明らかにする（目的2）**

仮説

- 自然食品とラベル付けされた食品は、化学的に製造されたと説明された食品に比べて、購買意図、効果認知、安全性認知が高くなる（H1）
- 自然食品とラベル付けされた食品は、化学的に製造されたと説明された食品に比べて、コスト認知およびリスク認知が低くなる（H2）
- フードファディズムの特性により、健康効果があるとされる通常食品は、自然食品とラベル付けされた食品に比べて、購買意図、効果認知、安全性認知が高くなる（H3）
- フードファディズムの特性により、健康効果があるとされる通常食品は、自然食品とラベル付けされた食品に比べて、コスト認知およびリスク認知が低くなる（H4）
- 自然食品とラベル付けされた食品は、健康不安、認知的熟慮テストにおける直感的反応スコア、自然志向傾向、フードファディズム傾向と正の関連を示す（H5）
- 自然志向傾向およびフードファディズム傾向という消費者の非合理的な食品選択行動に関して、フードファディズム傾向は自然志向傾向を包含すると考えられる。したがって、フードファディズム傾向が高いほど自然志向傾向も高くなるという交互作用効果が観察される（H6）

→ データに不備があったため、本報告ではH4の検証までとする

方法：参加者

- 調査は2025年8月にクラウドソーシングサービスである「ランサーズ」を通じてオンラインで行い、一般成人1244名を対象とした
 - $M_{\text{age}} = 44.65$, $SD_{\text{age}} = 10.61$, 男性710名, 女性568名, その他14名, 欠損値1名
- 調査票に接続した参加者はまず調査説明と同意書の内容を確認し、参加に同意した対象者のみが調査に進んだ
- 本研究は、東北学院大学（2025-010）の研究倫理審査の承認を受けた
- 本研究については実施に際し、事前登録を行った

方法：手続き・指標

- Meier & Lappas (2016) やSkubisz (2017) などの研究プロトコルに従い, 「自然」と銘打たれた食品とそうでない食品のシナリオを参加者に提示し, 評価を求めた
- **本研究では先行研究のプロトコルに, フードファディズム的食品（健康に効果があるとされる一般食品・生鮮食品）を追加した**
- 購買意図, 効果性認知, コスト認知（以上, 工藤, 2020）, 安全性認知, リスク認知（Slovic, 1987）の指標について評価を求めた（6件法）

方法：刺激

- **食品群（参加者間要因）**

- A.血液がサラサラになるとした食品群

- B.ダイエットに効果がある食物繊維を含むとした食品群

- C.美容に効果があるミネラルを含むとした食塩に関する食品群

- **具体的食品（参加者内要因）**

- 1.フードファディズム的食品

- 2.自然由来のサプリメント

- 3.化学由来のサプリメント

- 4.炭酸水（対照条件）

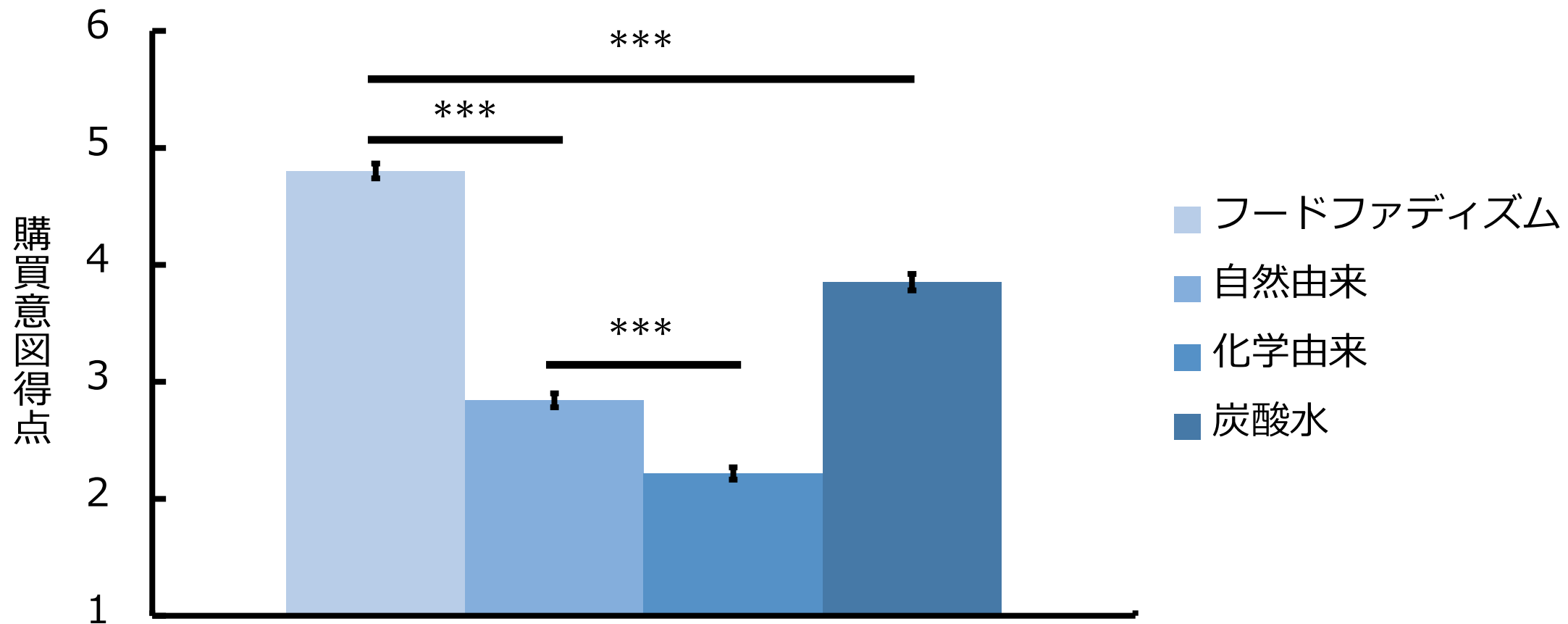
方法：刺激

- **A.血液がサラサラになるとした食品群詳細**

- 1.納豆（フードファディズム的食品）
- 2.自然由来の成分を使用したナットウキナーゼサプリ
- 3.化学由来の成分を使用した血液サラサラサプリメント
- 4.炭酸水（対照条件）

→ **本報告では、時間の都合上、「血液がサラサラになるとした食品群」の結果についてのみ報告する**

結果：購買意図

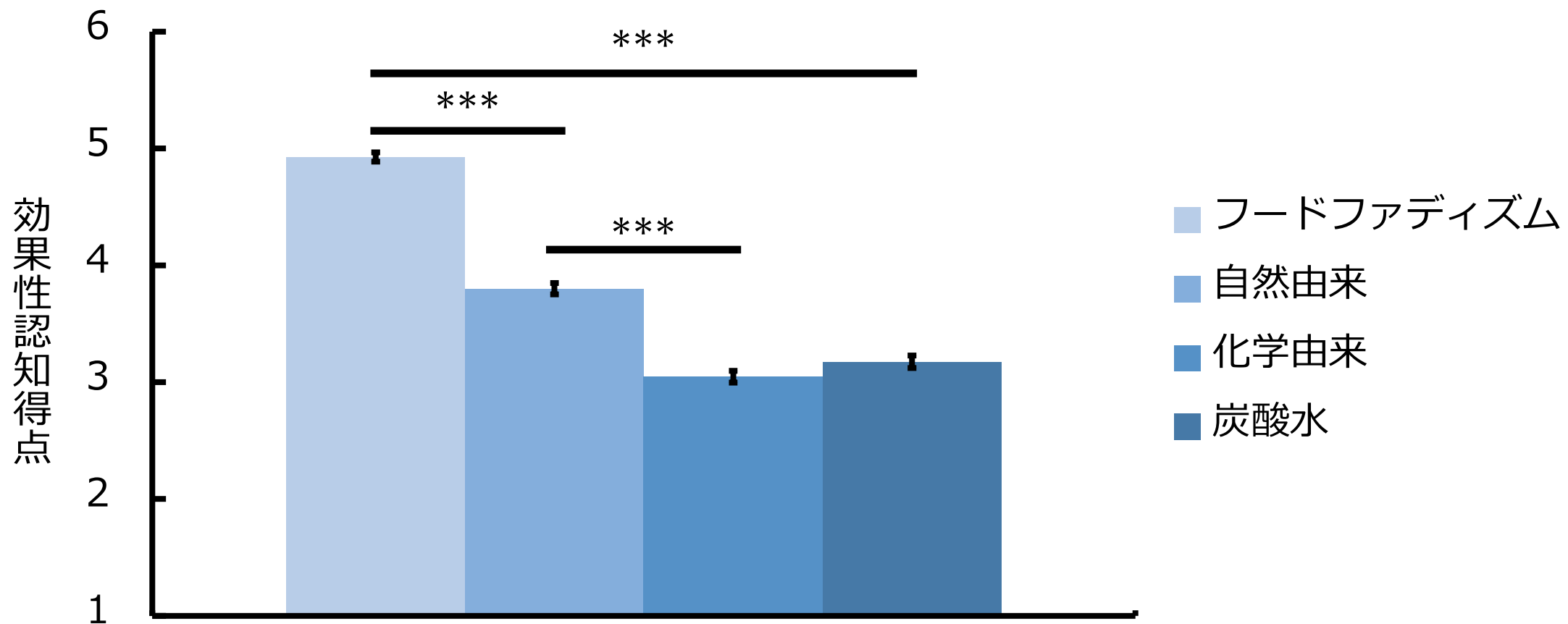


*主効果 : $F(3, 1272) = 414.65, p < .001, \eta^2 = .49$

**エラーバーは標準誤差を示す

***多重比較結果は主要なものを示す (Holm法)

結果：効果性認知

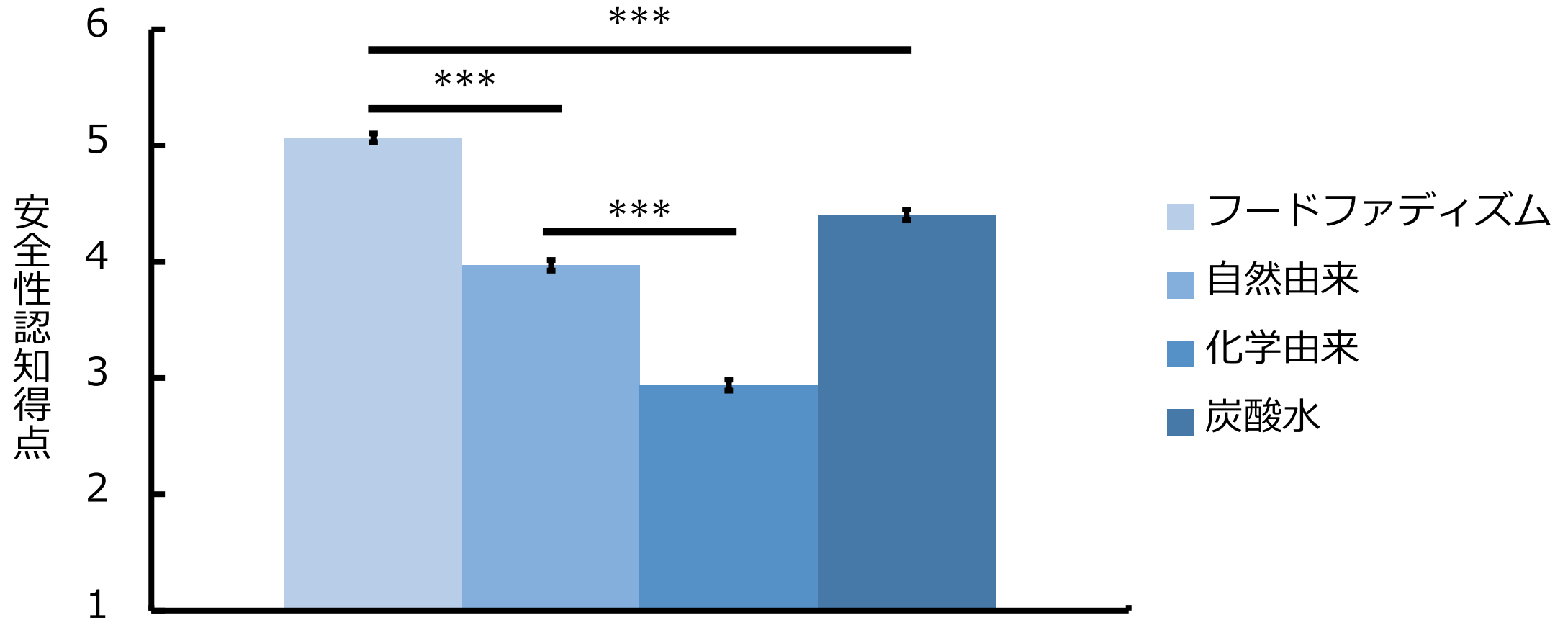


*主効果： $F(3, 1272) = 403.15, p < .001, \eta^2 = .49$

**エラーバーは標準誤差を示す

***多重比較結果は主要なものを示す（Holm法）

結果：安全性認知

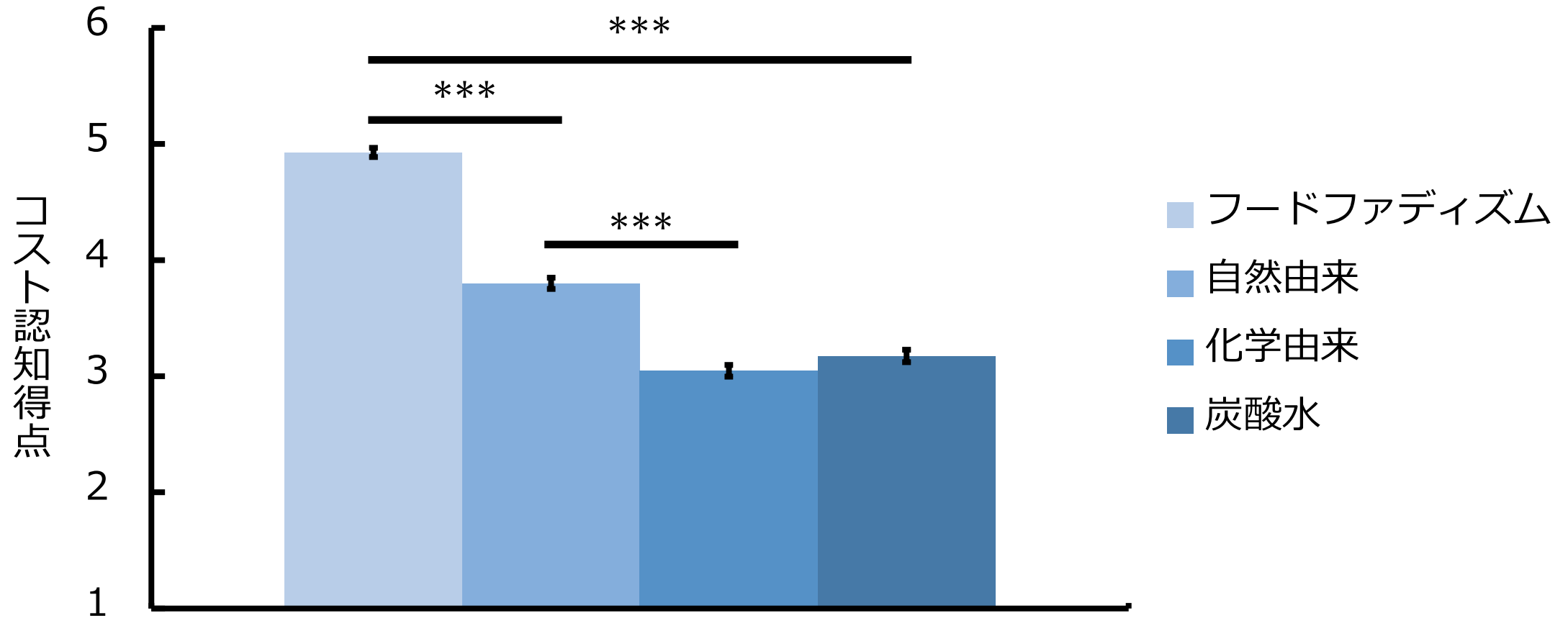


*主効果： $F(3, 1272) = 507.54, p < .001, \eta^2 = .55$

**エラーバーは標準誤差を示す

***多重比較結果は主要なものを示す（Holm法）

結果：コスト認知

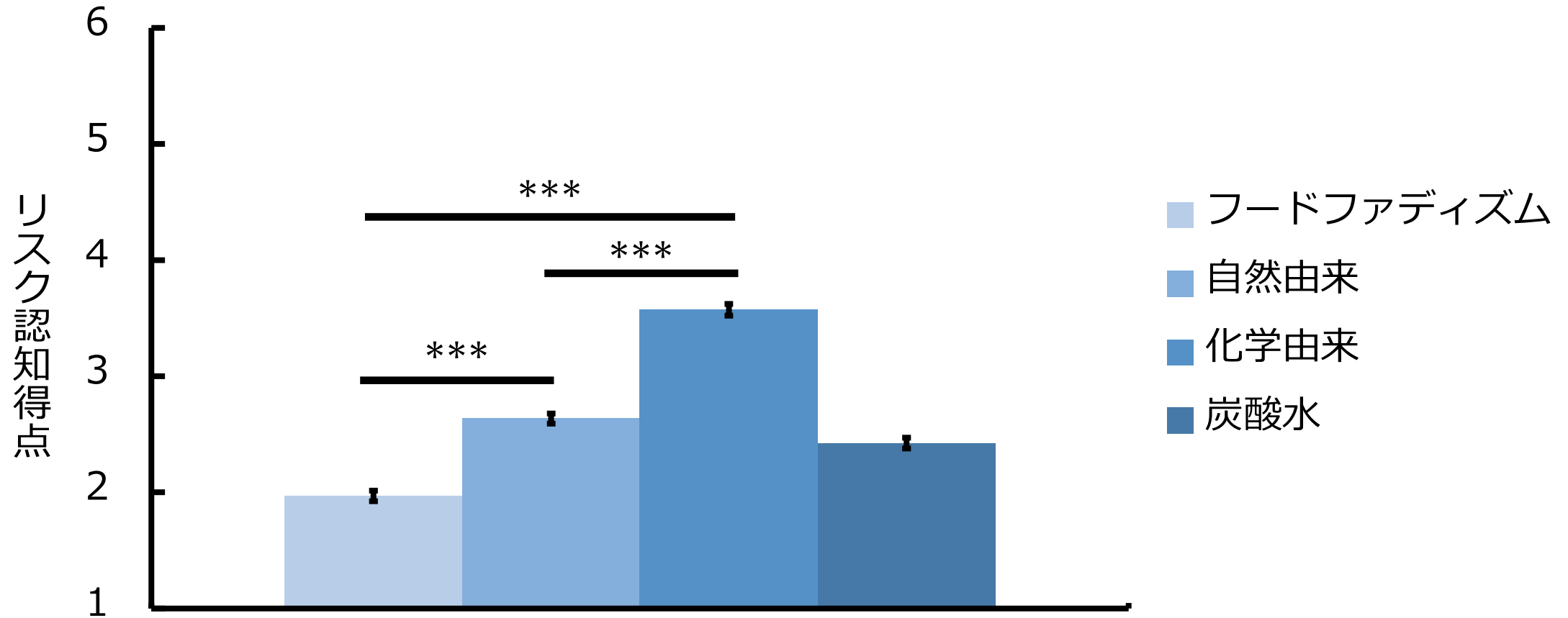


*主効果： $F(3, 1272) = 63.55, p < .001, \eta^2 = .13$

**エラーバーは標準誤差を示す

***多重比較結果は主要なものを示す (Holm法)

結果：リスク認知



*主効果： $F(3, 1272) = 265.68, p < .001, \eta^2 = .39$

**エラーバーは標準誤差を示す

***多重比較結果は主要なものを示す（Holm法）

考察

- **Natural is better biasの影響**

- 「自然」と銘打たれた食品に対する評価はおおむね仮説通りではあるが、フードファディズム的食品の方がポジティブな評価
- ただし、コスト認知は化学由来の食品よりも高い
- H1とH2は一部支持された
- **消費者の食品選択においては「自然の方が良いバイアス」が確認され、食品の健康効果の有無や安全性の評価にも波及していることが示唆**

考察

・フードファディズム的食品への評価

- ・「自然の方が良いバイアス」がより強調される結果
- ・通常食品・生鮮食品であるため、より「自然」的であると評価？
- ・**フードファディズムの背景には「自然の方が良いバイアス」が関連する可能性が示唆**
- ・ただし、コスト認知については最も高い結果
- ・工藤（2020）では、フードファディズム的食品はバランスのよい食事よりは手軽だと評価されていたが
- ・通常食品・生鮮食品であるため、調理や準備に手間がかかるとして、サプリメントよりは手軽ではないと評価された可能性
- ・H3とH4は一部支持された

本研究の意義

- 理論的貢献

- 「自然の方が良い」バイアスはWEIRD文化圏でのみ検討がなされてきたが、日本においても同様の結果が確認された
- **フードファディズム発生につながる消費者の心理的基盤を考える際に、「自然の方が良いバイアス」が関連する可能性を示した**

- 実務的貢献

- マーケティングにおける「自然」ラベルはポジティブな効果を持っていたが、過度な強調はフードファディズムにつながるため、誇大広告に留意する必要がある
- **消費者は「自然」と銘打つだけでリスクを過小評価する傾向があるため、関係省庁や業界団体は、過剰に「自然」を強調するラベルへの監視を強化する必要がある**